

月報 シオン山

2026年7月5日発行 (No509)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

生きるにしても、死ぬにしても、
わたしたちは主のものです。

(ローマの信徒への手紙14章8節b)

神様を旅路の隣に

持田喜明

気分転換に旅行にいこうと思う人って結構多い気がする。
旅行の計画を立てて、皆で話し合う。どこに行くのか。
近場か遠出か、移動手段は、宿はどこで、行った先で何をするのか。
話すだけで結構、楽しい。
私は旅行はどこに行くかより、誰と行くかが大切なんだと考える。
旅——トラベルはトラブルって言葉によく似ている。
旅は人生としてもよく喩えられる。

たしかに人生ってトラブルの連続。
仕事、人間関係、お金の問題。
そのほかにも数えだしたら本当にきりが無い。
もし人生を旅とするならば。
旅の相手は誰がいいだろう。
私は神様と一緒にいい。

そう、思っでは、いるものの……。
ふと気付いた時に神様のことを忘れてしまいがちだ。
乾いた世間の荒野を一人往き、険しい岩山が目の前に聳え立っていても、解決しないといけないんだから自分一人の力でどうにかしてよじ登ろうと思ってしまう。
それで挫折して、疲れきってしまう。

マタイによる福音書 7-7 でこう書かれている。

求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

この聖句の意味を、私はこう解釈している。

もしかして。
神様ってずっと前から隣にいてくれたんじゃないか？
私が気付いていなかっただけで。
一人で進んで、後ろに追いやって見ないようにしていただけなんじゃないか？

話しかければいいんだ。
相談に乗ってもらえばいいんだ。
そうすれば神様は優しく迎え入れてくれる。
道に迷った時は、道を整えて行き先を示してくれる。
疲れて倒れてしまった時は、助け起こしてくれる。
私のように一度神様から離れてしまった者にも分け隔てなく。

自分でも驚いているのだが、私がそう考えられるようになったのは本当に最近のことで、母が随分前にくれた『わたしはあなたを決してひとりにはしない』 サラ・ヤング著 という聖書日課を読みはじめてからだ。

アルバイト先でトラブルをおこして、仕事を辞めることを店長に告げた日に。

沈んだ気分でお家に帰って、ふと手に取って読み始めたら、涙が止まらなくなってしまった。

その時に自分が本当に心の弱い人間であることに気付いた。

神様が気付かせてくれたのだ。

私に出来ることは神様を心から信頼すること。

誰よりも頼りになる方が共に人生の旅路を歩いてくれる。

これ以上の幸福はないと思う。

だから私は、また神様から心が離れてしまうことを恐れて祈っている。